

歴史をつなぐ → 街並みをつなぐ

何世代にも渡り、守り引き継いできた場所。
 そこにはたくさんの歴史が刻まれています。
 建物や建具などの目に映る物だけではなく、
 先祖代々の暮らしが歴史として刻まれています。
 子どもの誕生、娘の嫁入り、七五三、ひな祭り、お正月・・・。
 日本には素晴らしい行事がたくさんあり、
 それを家族が祝ってきました。
 その場所、その歴史を大切にし、受け継ぎ、
 つなげていくことのできる家こそが
 本当の意味での日本の家だと白川建設は考えています。

建物だけがデザインに優れ、美しく出来上がっても
 その街並みに溶けこむことができなければ、
 その建物は残念ながら美しいとはいえません。
 街並みは人の手によって形成されます。
 そこに暮らす人々の生活、文化、風土がつながり
 あって街並みを形成していくのです。
 歴史・文化・風景・眺望、すべての調和がとれて、
 視覚的に美しい街並み、美しい家が完成すると
 白川建設は考えています。



今回の建築にあたり、先祖から代々引き継がれてきた庭園の石を再利用しています。思い出の残る庭石を配置することで遠い思い出を未来に引き継いでいきます



路地裏には歴史を感じるレンガ造りの塀が当時の面影を伝えています。この景観を壊さないために、外構はおなじレンガ造りで、歴史ある街並みの景観に一役かっています。



旧広瀬邸は日本の近代産業を育成し、住友グループの基礎を確立した広瀬幸平の旧邸で国の重要文化財です。歴史的な建物と風土に接する場所に建つ家だからこそ街並みや景観はもちろん、歴史や文化までを考えた建築となっています。白川建設の物語のある家づくりの理念が生かされています。

